

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

プラットふくし

こ

う

ち

高知県社会福祉協議会広報誌



2022
8月号

vol.4

contents

ボランティア・NPO情報 てをつなGO！ — 6

“楽しい”が元気の原動力！地域を盛り上げる居場所の形

シニアのちょっといい話 — 8

木下くみ子さん | 野村美雪さん

プラットこうち人 山崎勇人さん — 10

高知県社協からのお知らせ — 11

市町村社会福祉協議会ご紹介 — 12

佐川町社会福祉協議会

災害時と日常時の福祉活動はつながっている
災害時に活きる福祉力



災害の脅威と 福祉活動の 必要性

日本は世界でも有数の自然災害の多い国。全国のどこかで毎年のように地震や風水害などの自然災害が発生しています。

災害は、建物やインフラなどの物的被害や、死傷者などの人的被害といった形で、私たちの暮らしから大切なものを奪っていきます。

そして、災害は住まいや仕事、健康など様々な「生活課題」を抱えた人を急増させます。災害時要配慮者と言われる高齢者、障害者、子どもなどへの福祉的支援と併せ、こうした人々への支援を充実させていくことが大きな課題なのです。

私たちが暮らす高知県においては、近い将来南海トラフ地震の発生が確実視されています。その時に備え、いかにして地域の福祉力を高めておくかが問われています。

災害時に生きる福祉力

災害時と日常時の福祉活動はつながっている



東日本大震災でのボランティア活動

災害を教訓に 進化する 福祉活動

阪神・淡路大震災（1995年）で多くの災害ボランティアが駆けつけて注目を集めた「災害ボランティアセンター」、能登半島地震（2007年）で初めて設置された「福祉避難所」、東日本大震災（2011年）後に初めて設置された「地域支え合いセンター」、熊本地震（2016年）から始まった「災害派遣福祉チーム（DWAT）」。

行政や社会福祉協議会、NPOなどの関係機関において、過去の大災害時に得られた教訓と経験を活かしながら、官民協働で福祉活動の仕組みを構築し、進化を遂げてきました。

これらの仕組みが災害時に被災地支援のために十分機能するよう、日常時からの体制づくりを強化充実させていかなければなりません。

次頁から紹介する災害前後に展開される福祉活動のなかで、これらの活動内容も多くの方に把握していただけたらと思っています。

Before

災害発生前の活動

自主防災組織の活動のほか、地域住民による見守り、居場所づくり、生活支援などといった日常の福祉活動を通じて、災害にも強い地域の福祉力を高めていきます。

自主防災 組織の編成

2



防災訓練や防災用具の整備、防災マップづくりなどに取り組むのが、自治会単位で地域住民が組織化した「自主防災組織」。県内の組織率は97.4%（令和3年3月末時点）と高い割合となっていますが、中心メンバーの高齢化や若者の参加が少ない、防災意識の差があるなどの問題も指摘されています。

3

災害時要配慮者 支援計画の策定

高齢者や障害者など自ら避難することが困難な人たちをサポートするための支援計画の策定が進められていますが、個別避難計画の作成率は45.8%（令和3年3月末時点）とまだまだ低く、支援者の確保や要配慮者と地域とのつながりづくり等の課題があります。

1

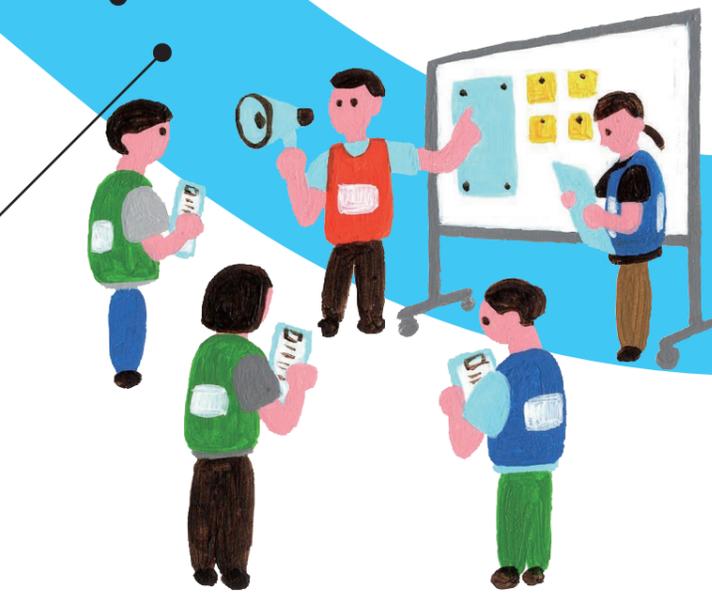
地域住民同士の 支え合い活動

自治会・小地域単位や地区単位で行われる見守りや居場所づくり、生活支援などの支え合い活動は、住民同士の繋がりを強めると共に、災害時要配慮者の把握などにもつながり、災害時の活動に生きてきます。



4

災害発生後をふまえた 福祉活動の体制づくり



災害発生後に速やかな福祉活動の体制づくりが行われるよう、災害ボランティアセンターや災害派遣福祉チーム（DWAT）等の研修・訓練、マニュアルづくり及び関係機関のネットワークづくりを進めています。



地域の訪問・交流活動





村の社協や地元組織などで運営する「災害ボランティアセンター」です。

高知県社協では、「高知県災害ボランティア活動支援本部」を設け、コーディネーター派遣や活動資金・資機材の調達などを通し、市町村のセンターの後方支援にあたります。

日常時には、各センターは運営スタッフ対象の研修や訓練のほか、災害時の活動マニュアルの作成、各地の地域組織やNPOとのネットワークづくりなどに取り組んでいます。

災害が発生したとき、被災地の復興に大きな力を果たすのが、全国各地から集う災害ボランティアです。

阪神・淡路大震災では、被災家屋の片付けや避難所生活の支援などの活動に137万人もの災害ボランティアが参加し、この年は後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。その後の東日本大震災や西日本豪雨災害(2018年)でも、たくさんの災害ボランティアがかけつけ、その復興を支えたのはご存知のとおりです。

災害時、行政には業務が極端に集中しますが、公平性の原則に縛られて被災者一人一人のニーズにきめ細かく対応することが難しい場面も少なくありません。そうした縛りが無い災害ボランティアは、被災地のニーズにきめ細かくスピーディに対応することができる重要な存在です。

災害ボランティアの活動希望者と被災地のニーズをつなげるのが各市町



被災地での活動

災害時にも生きる 日常の福祉活動

ここまで、福祉活動の流れを概観してきましたが、あらゆるフェーズで地域住民同士の支え合い活動が必要となることが分かります。

災害発生後に地域住民同士が支え合える地域とは、日常時から顔見知りが多く、つながりが強く、災害時要配慮者となる人たち(高齢者、障害者等)のことを把握できている地域です。日常時の福祉活動を活発に行うことが誰もが安心して暮らせる地域をつくり、結果的に災害発生後も支え合える地域にもなるのです。

災害時と日常時はつながっています。災害発生後のことをも想定し、地域の福祉力を高める「地域共生社会づくり」を進めていきましょう。

7 災害ボランティア センターの開設

災害ボランティアの主な活動

- 被災家屋などの片付けなど
被災家屋の片付け、家財の移動、泥の除去や災害ゴミの搬出など
- 災害時要配慮者への支援
子どもの遊び相手、高齢者の話し相手、炊き出し、買い物支援などの生活支援
- 地域住民の交流の場づくり
お茶会やサロンなどの開催
- その他の支援
仮設住宅への引越しのお手伝いなど

10 地域支え合いセンター

仮設住宅や地域で生活している人たちが生活再建に向けて安心した日常生活を送れるよう、自治体から委託された社会福祉協議会等が生活支援相談員を配置し、見守りや健康づくり、生活支援、交流の場づくりなどが行われます。

仮設住宅や地域で生活している住民が組織化し、地域支え合いセンターや関係機関と連携して、見守り、居場所づくり、生活支援などの支え合い活動が行われます。

新たなコミュニティでの地域住民同士のつながりづくりは大切な福祉活動となります。

11 新たなコミュニティでの 地域住民同士の支え合い

9 災害発生 2ヶ月 以降の活動

被災したことにより、一時的な生活費を必要とする世帯に対して、生活福祉資金貸付制度の緊急小口資金の貸付が行われます。

生活福祉資金貸付 (緊急小口資金災害時特別貸付)

災害発生後に一般の避難所では生活しづらい高齢者や障害者、妊婦等が過ごすことができる「福祉避難所」。高知県では、南海トラフ地震発生後の最大の想定避難者数(介助者を含む)を3万人弱としており、まだまだ福祉避難所の指定を増加させることが必要となっています。

6 福祉避難所の開設

5 災害発生直後の活動

一般的に災害発生から72時間を経過すると生存率は著しく低下します。一人でも多くの方の命を救うためにも、災害の発生直後はふだんから顔見知りが多く、つながりの強い近隣住民同士で「命を守る」ための避難や救助、応急手当などの活動を行うことが重要です。



After

災害発生後の活動

災害の発生直後は近隣で住んでいる住民同士でなければ難しい「命を守る」ための避難や救助等といった支え合い活動が中心になります。その後、災害ボランティアや福祉専門職などが参加し、被災地の支援が行われます。災害発生2か月以降は、仮設住宅などの新たなコミュニティでの孤立・孤独等を防ぐための地域住民などによる支え合い活動へと変化していきます。

8 災害派遣福祉チーム (DWAT)の派遣

災害派遣福祉チーム(DWAT)の編成に関する事務局業務は県から高知県社会福祉協議会へ委託されており、派遣要請がある度にチームを編成しています。チームの人数はおおむね4~6名程度で、チームごとの活動期間はおおむね7日間程度となっています(派遣終了は社会資源の復旧状況や関係団体の活動状況を勘案)。

平常時には各市町村等の社会福祉施設の福祉専門職員を対象に、DWATチームスタッフとしての研修などを行っています。

発災生害

5 命を救う 地域住民同士の 支え合い



福祉専門職のミーティング

被災自治体から県への要請に基づき、福祉専門職からなる災害派遣福祉チーム(DWAT)が編成され、一般避難所に派遣されます。災害時要配慮者(高齢者、障害者、子ども等)に対し以下のような生活支援が行われます。

- 避難者のアセスメント
- 相談支援(一般難所内での相談窓口の設置)
- 一般避難所内の環境整備
- 日常生活上の支援(必要に応じた支援可能な関係機関へつなぐ)
- 福祉避難所への誘導

松葉川青年団

※松葉川青年団は、それぞれが仕事をしながら活動しているため、固定の住所、電話番号はありません。



復活は突然に!?

かつては、若者が地域行事の中核を担い盛り上がりを見せていた青年団活。しかし、若者の流出やライフスタイルの多様化などにより活動が衰退気味となっていました。そんな中、四万十町松葉川に約30年ぶりに青年団が復活し、賑わいを見せています。多種多様な活動が展開されている松葉川には魅力と活気があふれていました。

約30年ぶりの復活となった松葉川青年団ですが、そのきっかけは「星空」。流星群が見られるタイミングに地元のみならず、なんと約2000人もの住民が集まりました。この盛り上がりや団体を支えていきたい！と有志が集まり、松葉川青年団としての活動が再出発しました。

青年団の復活で地域を元気に！

松葉川を感じる楽しさを



コロナに負けるな!! 四万十川川びらき in 松葉川

皆さんの喜びを生み出す青年団として

数々の趣向を凝らしたイベントを打ち出す松葉川青年団。11月には3回目となる「子どもたちや青年団の先輩方をはじめ、の方が喜んでくれること」にやりがいを感じていと言います。そういったやりがいを感ずるとともに、楽しみながら地域を盛り上げる。青年団という家族同然の居場所が「地域の楽し」を生み続けています。

家地川での堰堤湖面清掃

“楽しい”が元気の原動力! 地域を盛り上げる居場所の形

ひとりひとりの強みを生かす地域の場づくり

地域活動と一言にいてもその形は様々。活動に関わる人の想いや得意なことによって色とりどりの展開を見せます。今号では、地域を元気にするための取組について、「楽しさ」と「居場所」をキーワードに2つの団体を紹介します。



農耕部と小学生との楽しい芋掘り

住民主体の地域活動を通じ、相互に生かし生かされる関係づくりのため、地域の誰もが集える場を作ろうと令和2年にあったかふれあいセンターを開設した「さかわ夢まち協議会」。「さかわ夢まちランド」を拠点に展開されるNPOの取組を紹介します。

「楽しい」を原動力に

さかわ夢まち協議会には手芸が得意な人やお花屋さんだった人など個性豊かなメンバーがたくさんいます。それぞれが得意なことを持ち寄ることで子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした取組ができています。特にきれいに整備された花壇は圧巻です。そこでは咲き誇る花々を前に会話を弾ませる光景が見られ、自然と人が集まり、笑顔あふれるかけがえのない場所になっています。1人ひとりの強みを生かすことで、無理なく、メンバーも利用者も一緒に楽しみながら活動することができます。

十人十色の夢まちランド

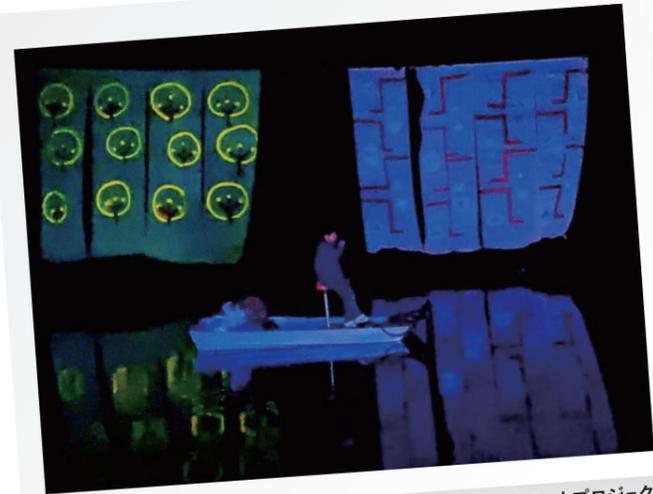
多くの人に利用していただけるよう利用者から多様な要望を積極的に取り入れるための工夫も欠かしません。年3回程度開かれる誰でも参加OKの運営委員会では、日ごとの活動の中から出た要望を検討し、実施でき

花が尽きない花壇づくり



地域に残り続ける居場所として

多世代が楽しめる活動を住民と一緒に考え、実行していくさかわ夢まち協議会。大切なのは、「楽しい」「面白い」という活動を地域のひとと一緒にやっていくことで、その中で自分たちが楽しむ背中を見て、後を担ってくれる仲間ができれば嬉しいと話しています。「将来は利用者になりたい」。そんな願いを叶えるために笑顔あふれる居場所づくりを続けています。



第二回いっぴょう沈下橋アートプロジェクト

高知城など各所を外国の方に案内する高知SGG善意通訳クラブでいきいきと活動されている、木下くみ子さん。令和3年度の「高知の輝くシニア大賞」では「はちきん賞」も受賞された。

海外の観光客の方々への通訳を主な活動内容とする高知SGG善意通訳クラブは1988年に設立された。当時、木下さんは高校の英語講師として働いていたが、同僚からクラブの設立を聞き入会。設立当初は県から委託された事業をメインに活動していたが、姫路城で開催された第1回お城サミットにクラブで参加し、ガイドのすばらしさに衝撃を受けた。

その後、第2回お城サミットの会場が高知城に決定し、高知SGG善意通訳クラブが案内することになり、高知城の歴史などを1から勉強。その甲斐あって、皆の力を結集して取り組んだお城サミットは大成功で、高知城ガイドを継続的な活動にすべく、木下さんは初代お城部長となったそう。また、クラブの会員にとっても、自分たちが高知城のことを知ることで、高知城を案内できる材料が増え、観光客の方々に喜んでいただけることが大きなやりがいとなった。

このことがきっかけで、クラブは県からの委託事業を離れ、高知県の観光地を対面でガイドする活動にシフトし、高知県各所でのツアーガイドや高知城以外の観光地のガイドマニュアルの作成など、活動が活性化していく。



令和3年度シニア大賞表彰式



木下くみ子さん

高知市

高知SGG善意通訳クラブ

高知の魅力を伝えます！



シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。

現在では、高校や大学、県、観光施設等を巻き込んで活動している。高校、大学では、ボランティア活動の楽しさなどを伝える授業もしており、郷土愛に目覚めてもらえるように工夫をしている。他県へ行ったとしてもボランティア活動を通じて高知県の歴史や文化を知り、地元の良さを全国や海外の人々に伝えてほしいという想いがあるからだ。

高知県の活性化につながる活動を長く続けている木下さん。高知へ来てくれた方々に、大好きな高知を知ってもらって喜んでもらえる、リピーターとして家族や友人を連れて再度高知に来てくれることなどが活動の原動力になっているそう。

英語部水曜勉強会の講師である国際交流員のモードさんも、いつも元気で楽しい方だと木下さんのことを教えてくれた。クラブの仲間とも同じ方向を向いて情熱的に活動していて、木下さんがかけがえのない良い仲間恵まれてることをひしひしと感じた。

人生を豊かにするのは「仲間・社会貢献・生涯学習」なのだ、終始若々しくキラキラとした姿でお話してくれたのが印象的だった。

子どもの頃に親しんだ「チャンバラっこ」。

そのフィールドを野山や公園から体育館へ移し、新しい安全な用具も開発した《現代のチャンバラっこ》へと進化させたのが『スポーツチャンバラ』だ。身につけるのは簡単な防具だけで、体のどの部分を相手に打たれても即負けという単純明快さで、年齢や性別を超えて誰もが気軽に楽しめる、今や世界中に愛好家が広がって世界大会まで開催される新しいスポーツだ。

今年神奈川県下で開催される「ねんりんピックかながわ大会」にご主人の隆光さんと共にスポーツチャンバラの選手として出場を予定しているのが野村美雪さんだ。60歳以上が参加対象のねんりんピックで、「私、最年少選手だから嬉しい!」とにっこり。

新型コロナウイルスの影響で全国大会が相次いで中止となるなか、久しぶりの大会開催で、他県の選手との交流を深められるのは大きな楽しみだと言う。また、千葉に嫁いだ次女の五月さんたちに会えるのも楽しみの一つだ。

野村さんがスポーツチャンバラを始めたのは28年前。頭が真っ白になるような非現実的な快感を覚え、すぐに夢中になった。子どもがまだ小さい時にスポーツチャンバラが始められたのは、練習中に面倒を見てくれる仲間がいたことが大きく、「人との出会い・つながりが財産」だと野村さんはいふ。

スポーツチャンバラに親しむ野村さんの姿を見て、子どもたちもスポーツチャンバラを始め、次女の五月さんは中学1年生の時、世界チャンピオンになった。練習環境を整えてやりたい!という世界チャンピオンの母としてのプレッシャーを感じ、しんどいと思う時期もあったが、そんな時期を乗り越え、今では孫のすずちゃんまで加わって、スポーツチャンバラを通して家族との関係もバランス良く保つことができています。

そして、改めてスポーツチャンバラの魅力を実感していると言う。今後は、「子どもがいても、気軽にスポーツチャンバラを続けられるよう、後進の人たちの担い手になりたい。会員の子どもの面倒を見ながら、自分もスポーツチャンバラを楽しんでいけたら嬉しい。～ここに来ればみんな私の子ども～」キラキラとして美しく、やさしい笑顔で、野村さんはそう締めくくってくれた。

※ねんりんピックとは・・・
全国健康福祉祭（愛称「ねんりんピック」）は、60歳以上の高齢者を中心とするスポーツ競技や美術展などの文化イベント、健康福祉機器展など、あらゆる世代の人たちが楽しめる総合的な祭典で、平成元年から毎年各都道府県の持ち回りで開催されている。今年は11/12～15まで神奈川県内の26市町で開催予定。



空気が入っている剣（エアソフト剣）の長さは45cmから200cmまであり、子どもから大人まで楽しめるスポーツとなっている。

野村美雪さん

高知市

高知県スポーツチャンバラ協会理事・事務局長



②大会のようす ①師範と野村さんご家族



令和4年度 県民いきいき講座 7月末より開催!!

一般県民の皆さま向けに、介護知識・介護技術の普及及び高齢期をより良く暮らすために必要な知識を習得していただくための「県民いきいき講座」を開催します。

講座・開催日時等の詳細については、[本会ホームページ](#)をご覧ください。

[日時] 令和4年7月末～10月
[場所] 高知県立ふくし交流プラザ
高知市朝倉戊375-1(駐車場200台あり)
[受講料] 無料
[申込受付] 7月13日(水) 9:00～
[申込・問合せ先] 高知県社会福祉協議会
いきいきライフ推進課
TEL: 088-844-9054
FAX: 088-844-9411
E-mail: ikigai@pippikochi.or.jp
(注) 講座は、電話、FAX、E-mail、QRコードいずれかにて事前の申し込みが必要です。
(注) 各講座とも先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。



「ふくし総合フェア」を 開催します!!

「ふくし就職フェア」と「ふくし機器展」、ノーリフティングケアそして11月の「介護の日」のイベントを統合して、「ふくし総合フェア」として開催します。

[日時] 令和4年11月18日(金) 10:00～17:00 / 19日(土) 10:00～16:00
[場所] 高知ちばさんセンター 高知市布師田3992-2
[問合せ先] 高知県社会福祉協議会
高知県福祉人材センター
TEL: 088-844-3511
FAX: 088-821-6765
E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

高知県社協からのお知らせ



子ども食堂 シンポジウムの開催!!

子ども食堂は食の提供を通じて、子どもたちを見守り、保護者の孤立感や負担感を和らげるなど地域のコミュニティ拠点としての役割を果たしています。そうした子ども食堂の輪を広げることを目的に、子ども食堂の目指す姿や期待される役割などについて、関係者が集まりみんなで考える「子ども食堂シンポジウム」を開催します。

[日時] 令和4年9月15日(木)
13:30～16:45
[場所] 高知県立ふくし交流プラザ
2階多目的ホール 高知市朝倉戊375-1
[申込・問合せ先] 高知県社会福祉協議会
TEL: 088-850-9100
FAX: 088-844-3852
E-mail: kodomo-kochi@pippikochi.or.jp

一般社団法人オフィスポラリス代表
高知県立交通安全こどもセンター 園長

山崎 勇人さん (32)

プラットフォーム こうちん VOL.4

こどもの頃からディズニーが大好きで、東京ディズニーリゾート(TDR)のキャストも務めたという山崎勇人さん。現在でも、TDRで学んだホスピタリティの心を大切に持ちながら、高知県立交通安全子どもセンター(交通公園)が地域の繋がりある場になることを願って、活動している。

Guest happiness is my happiness!

もともと引つ込み思案な性格で人前に立つのは苦手。そんな自分を変えてくれたのは、こどもの頃から大好きだったTDRで働いた経験だった。高校卒業後、TDRを運営する(株)オリエンタルランドに入社し、キャストとして働いた。同社が大切にしているポリシーは、ゲストの幸せは自分の幸せという意味合いの「Guest happiness is my happiness」。その言葉は、山崎さんの現在の活動にも繋がっている。

交通公園園長に

TDRで働いて5年が経とうとした頃、学んだホスピタリティを高知で伝えたいと思いUターン。プロのホスピタリティを学ぶべく、市内のホテルに就職してレストランやラウンジでの接客を経験した。

さらに「やりたいこと」を探求するために退職した時期に出会ったのが、比島交通公園を当時運営していたNPO法人の求人だった。小学生のころ毎

日のように遊びに来ていたこともあり迷わず応募し、そのまま導かれるように採用となった。

園長に抜擢され、園の運営を包括的に任せられるようになったのが28歳のときのこと。園長という責任ある立場になったことで地域の集まりや防災連合会にも出席するようになり、地域との繋がりができるようになった。福祉委員の仕事を受けるようになったのも、こうした地域の縁あつてのことだ。「TDRは一度訪れた方ならお分かりだと思いますが、「ハピネス」が溢れています。その「ハピネス」を生み出しているのが、パークで働くキャスト。僕は当時、ゲストのために自分が何ができるかを常に考えながら勤務していました。そして5年間の経験で培ったのが「相手の立場にたつ」「相手の気持ちを考えて」「相手をよく見る」という点です」

ふだんのコミュニケーションでも大切な3つのポイントを子どもたちに伝えていくために、「スプーンお手持玉リレー」や「連想ゲーム」「間違い探し」といった体験ゲームを交えたプログラム講座「思いやりの魔法」を依頼を受けたところに出前講座で開催している。

公園をみんなが繋がる場所に

コロナ禍の中で、子どもと学校の繋がりが薄れていったり、友達の家遊びに行きたいけど行けなかつたりと、子どもたちもたくさん影響を受けていることを感じた。

高知県地域生活定着支援センターからのお知らせとお願い

TEL.088-855-3611 E-mail. kochi-teichaku@pippikochi.or.jp

地域生活定着支援センターからのお願い

地域生活定着支援センターが住居確保や福祉サービスの調整など、地域での安定した生活の基盤を整えていくためには、帰住先市町村の不動産業者、福祉サービスの提供事業者をはじめ、病院や市町村社会福祉協議会、ボランティアやNPO、市町村行政といった様々な立場の方と連携・協働することが必要です。本事業への協力にご関心がありましたら、ぜひご連絡ください。あらためてご説明にうかがいますので、よろしくお願いたします。

被疑者等支援業務とは

地域生活定着支援センターでは、これまで矯正施設から退所した帰住先のない高齢者や障害者の支援に取り組んできました。これに加え今年度からは、「被疑者等支援業務」が始まりました。

被疑者等支援業務とは、逮捕されたり、裁判中であつたりする刑事司法手続きの「入り口段階」にある高齢者や障害者の被疑者・被告人に対して、釈放後直ちに必要な福祉サービスなどを利用できるように支援するものです。従来よりも早い段階で関わっていくことで、矯正施設を経て出所する人だけでなく起訴猶予や執行猶予などの処分で釈放となった人たちへの社会復帰支援も可能となります。

矯正施設から退所した 高齢者や障害者の 社会復帰にご協力ください

被疑者等支援業務が始まりました

地域生活定着支援センターのあらまし

矯正施設※を退所する高齢者や障害者の中には、退所後、地域で安定した生活を送るために、住むところを確保し、また直ちに福祉サービスを受ける必要がある人がいます。

「地域生活定着支援センター」は、そういった人たちに、矯正施設入所中から退所後まで、一貫した相談支援を実施することにより、その社会復帰や地域生活への定着を支援しています。

※刑事施設(刑務所、少年刑務所、拘留所)、少年院などのこと



ディズニー時代の山崎さん



誰もが誰かから 必要とされる 地域づくりを目指して



佐川町社会福祉協議会

高知県中西部に位置する人口約1万3,000人の町、佐川町。
令和5年春から放送されるドラマ「らんまん」のモデル・牧野富太郎の出身地で、
いまなお歴史情緒溢れるまち並みが多く残されています。
そんな佐川町で、社会福祉協議会が運営する施設の取組みをご紹介します。

地域共生交流拠点ぶらっとホームさかわ

地域交流拠点ぶらっとホームさかわでは、誰もが排除されることなく、「すべての人に居場所と役割のある社会を目指す」という理念のもと、自分らしく生き、共に支え合う「地域共生社会」の拠点施設として令和2年8月にオープンしました。

ホームの1階では共生型小規模多機能型居宅介護事業として高齢者を対象に日中活動支援や訪問支援、宿泊支援を行っているほか、障害のあるお子さんへの放課後や休学日の活動支援、障害のある方への生活介護、短期入所を行っています。

2階には認知症対応型グループホームがあり、住み慣れた自宅に近い家庭的な環境のもと生活できるよう支援を行っています。その他にも地域住民が気軽に「ぶらっと」立ち寄り交流できる場として地域交流スペースも設置しているなど、多様な住民福祉ニーズに対応しています。

強みを活かした多世代交流の取組

そのような地域共生交流拠点であるぶらっとホームさかわですが、小学生から90歳代の高齢者まで幅広い方が利用するという特徴から、障害の有無や年齢差に関わらない多世代交流が生まれています。その関わりの中で、車いすに乗っている方と外に出かける際には子どもたちが後ろから押して手伝う、お互いの話し相手やレクリエーションを一緒に行うなど、自然と支え合いの土壌ができてきており、地域共生交流拠点ならではの強みを活かした取組を進めています。

地域共生の取組を進める中で、大切なことはお互いを知ることという考えのもと、関わりを持つことで不安や戸惑いを払しょくし、共感が生まれる。そして、誰もが認められ必要とされる居場所があることにより人とのつながりができ、支え合いが生まれています。



①令和2年にオープンした地域交流拠点ぶらっとホームさかわ
②施設を利用する2人の年齢差はなんと90歳!
③外出の際も自然な支え合いが生まれています

幸せの輪

田村和裕施設長からは、「当初は利用者さんの特性や職員の専門性の面から共生型施設として不安視されることもあったが、いざ取組を始めてみると、みんなに役割があり互いに必要とされ、関わり合うことができることが本来のコミュニティであると感じた。人と人をつないで幸せの輪を広げていきたい。」と語っていただきました。

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉 375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp



<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車で越しの方] 高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、
伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関でお越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

QUOカードがあたる！ 読者アンケートに ご協力ください！

「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより10月30日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



アンケートは
こちらから！

